## これまでの活動（11月～2月）

11月　キエーロ製作協議　大泉さんと山神さんと茨城県森林組合連合会へ

12月　アドバンスフォースグループ山根社長、NPOグラウンドワーク笠間塙さんと

12月　笠間義士会そば講

12月　友部ロータリークラブ年末家族会

12月　臨時会で新正副議長就任　大関議長と

1月　新年賀詞交歓会　同じ会派の安見議員、坂本議員

1月　新年賀詞交歓会で茨城アストロプラネツ山根さん、茨城バックボーン高松さんと原さん

1月　道路清掃作業　こうのす道路里親の会活動

1月　笠間市長杯ドッジボール大会選手宣誓を受ける

1月　キエーロの調査　神奈川県藤沢市役所

1月　常磐大学シンポジウム　パネラー

2月　SDGsプラットフォーム懇談会多様な方々

2月　茨城県市議会議長会主催議員研修会　講師の土浦一高・付属中副校長(4月から校長) のブラニク・ヨゲンドラ(よぎ) さん

2月　ロータリー・インターシティミーティング　笠間市特別大使の川嶋志乃舞さんと

2月　兄弟打合せ後の食事会（妹：礼子、弟：二郎、二男：淳基）

2月　予算内示会後の議員研修会　講師は常磐大学 吉田勉教授

## 内桶克之（うちおけかつゆき） プロフィール

| | |
|---|---|
| 生年月日 | 昭和35年（1960年）10月1日生まれ（62歳） |
| 学　歴 | 法政大学大学院修了（政策学修士）、日本大学農獣医学部卒業<br>※勤労学生：朝3時に起床し、新聞・雑誌を私鉄の駅の売店に運ぶ |
| 現　在 | 笠間市議会副議長、議会運営委員会委員、建設土木委員会委員<br>友部ロータリークラブプログラム委員会委員長<br>ともべ幼稚園理事、NPO法人グラウンドワーク笠間顧問<br>NPO法人ららら音楽アトリエ理事<br>日本ゴルフツアー選手権森ビルカップ大会役員<br>笠間市ドッジボール協会理事長、茨城県ドッジボール協会顧問 |
| 趣　味 | ウォーキング&ごみ拾い、スポーツ観戦、笠間焼を使おう贈ろう運動 |
| 信　条 | 「他人と過去は変えられないが自分と未来は変えられる」 |

内桶克之
オフィシャルHP

内桶克之
YouTube

県下中学校駅伝大会スターター

HP http://uchioke.com　　katsuyuki.uchioke　　okeok19601001

---

市民とともに、地域とともに　vol.18

# ともに歩む

令和5年3月発行
発　行：内桶克之
連絡先：〒309-1706
笠間市鴻巣 593
Tel：0296-77-2524
Mob:090-1811-0098
Fax：0296-77-2524

## 皆さん、こんにちは、内桶克之です。

12月に行われた笠間市議会選挙では、大変お世話になりました。おかげさまで、2期目の議員活動を始めています。12月27日の臨時議会で副議長選挙に立候補し、選挙で副議長に就任しました。大関久義議長を補佐し、議会改革にもしっかり取り組んで参りますので、よろしくお願い申し上げます。

1月22日に常磐大学で開催した「二元代表制を極める！シンポジウム」にパネラーとして参加

## 令和４年第１回臨時会（12月27日）副議立候補　所信表明要旨

私は、誠実、信頼、感謝を理念として、市民の皆さんが、これからも笠間に住み続けていきたいという、そんなまちをつくることを目標に、市議会議員としてこの４年間取り組んできました。

私たちが議論する議会の重要な点について、２点ほど述べさせていただきます。

１点目は「信頼される議会」であることです。笠間市議会では今年９月の定例会で笠間市議会基本条例を全会一致で可決し、制定しました。この基本条例の前文には「議会及び議員は、より一層市民からの信頼に応えるため、積極的な情報の公開を通じて説明責任を果たし、議会諸活動への市民の参加のもと、平等の権利を有する議員相互の自由かっ達な議論を展開しながら、市政の論点を明らかにして、政策立案及び提言を積極的に行っていかなければならない。」とあります。つまり、議会議員は市民の声を聞き、市政へ反映すること。情報公開と情報発信、市民参画による開かれた議会の実現、政策立案や提言などの議会改革を推進し、信頼される議会をつくっていかなければなりません。

２点目は、「強い議会」をつくることです。笠間市議会基本条例では、危機管理体制の整備に努め、災害や感染症などの不測の事態の発生時にも対応した議会、さらに多様性を尊重しながら、議論を集約していくことが議会の役割であります。常任委員会での市政課題について議員間で活発な議論をすること、そして議論の合意形成のプロセスを大切にし、二元代表制の一翼を担う議会として強い議会になれるよう、努力して参ります。

私は新議長のもとで、情報通信技術の積極的な活用を図り、笠間市議会として公式SNSでの情報発信を実施したいと考えています。公正で公平な議会運営に努め、市政課題を共有しながら積極的な議論によって、市民の皆様の生命・安全・安心が守られ、市政のさらなる発展につながる議会運営ができるよう力を尽くす覚悟であります。

## 令和４年第４回定例会（11月７日～18日）　一般質問は下記の項目を質問しました。

### ❶ コロナ後の観光戦略について

新型コロナウイルス感染症の拡大は、観光産業に大きな影響を及ぼした。外国人や国内旅行者の減少は、地域経済の縮小に直面していた地方の観光地を直撃した。そこでコロナ後の観光戦略の方向性や政策について質問した。

### ❷ 「笠間の栗」の生産・加工と流通について

「笠間の栗」については、市を挙げてPR活動や新栗まつり、JR東日本と連携した販路拡大などによって「笠間の栗」のブランド力は強化され、全国的に知名度が上がり、需要は高まっている。その一方で、市内で「笠間の栗」を加工・販売する店舗等で、「笠間の栗」が入手しにくい状況がある。そこで「笠間の栗」の生産の見通しや流通の状況、今後の新栗まつりについて質問した。

### ❸ 市内学校間の連携と市内高校と地域の連携について

今年４月にキャリアコーディネーターを採用し、市内小中高の学校間連携推進協議会を設立。市内の公立学校や県立、私立の学校間連携が始まった。市内の高校は笠間高校、今年度開校した日本ウェルネス高校、この４月に友部高校が改編されIT未来高校が開校する。そこで市内の学校間の連携や地域との連携などについて質問した。

# 1. コロナ後の観光戦略

### 問　現在の市観光状況

**答　産業経済部長**　多くのイベントが中止になり、観光業は非常に厳しい状況にあるが、新規に開設したアウトドアスポーツ施設や宿泊施設等によって市内への誘客を図っている。人気イベントも３年ぶりに復活させた。コロナ禍でも安心なアウトドア施設が盛況で、栗シーズンを迎え、県内外からの来訪者でにぎわいが戻っている。

### 問　今後のインバウンド政策

**答　産業経済部長**　コロナ交付金を活用して台湾からの訪日ゴルフツアーが実施された。また、観光課の職員が台湾現地の旅行会社４社を訪問し、セールスコールを行うなど、引き続き笠間台湾交流事務所と現地旅行社に働きかけている。来年以降の外国クルーズ船受入れ再開に向け、県と協力しながらツアー誘致を進めているが、インバウンド客の来訪に備え、市内各店舗でのカード決済等キャッシュレス化の推進も図る。

### 問　着地型観光の受入れ体制

**答　産業経済部長**　ＮＰＯ法人笠間の魅力発信隊による「笠間ふれあい体験旅行」があり、県外の中学校から１７０名の生徒が日帰りの田舎暮らし体験が行われ、好意的な意見が多数寄せられた。インバウンドの教育旅行受入れも含め、笠間の魅力発信隊、笠間観光協会とも連携し、笠間の魅力をＰＲすることでさらなる誘客を図る。

３年ぶりに開催された体験旅行

栗拾いを体験する浦安市の中学生

**問　着地型の観光の受入体制では、観光地域づくり法人ＤＭＯを中心に行っているところが多い。例えば、栃木県大田原市では、株式会社大田原ツーリズムが主体的に行っている。群馬県みなかみ町では、一般社団法人みなかみ町体験旅行がその役割を担っている。笠間での体験旅行・小中学校教育旅行は、ＮＰＯ法人笠間の魅力発信隊が中心となって行っているが、観光地域づくり法人ＤＭＯについてどのように考えているのか。**

**答　産業経済部長**　地域の官民関係者と効果的な役割分担をした上で、着地型旅行商品の造成、販売の実施、外国人を含む旅行者への情報発信等について、自治体と連携して取り組むことも必要。笠間観光協会では、既に観光情報の発信、ツアーの造成、販売、公園管理、コンシェルジュや市民ガイド、民泊、二次交通等に取り組んでいることから、ＤＭＯの役割を担っていると考えている。笠間観光協会が中心となって連携しながら、さらなる観光地域づくりを進めていく。

### 問　地域通訳案内士の検討状況

**答　産業経済部長**　２１名いるかさまコンシェルジュが地域通訳案内士の役割を担えるよう人材の確保や育成を行っている。いばらき観光マイスター資格者９名、Ｓ級資格者４名、英語、中国語で観光案内ができる者もおり、多様化するガイドへのニーズに対応できる体制を整えている。今後は市職員の副業制度を活用し、通訳案内体制の整備も進めたい。

**■笠間市と友好都市の和歌山県田辺市では、着地型でのインバウンド客を受け入れるために、観光協会とは別に熊野地域のインバウンド政策を推進するためにＤＭＯの「田辺市熊野ツーリズムビューロー」がその役割を担っています。つまり、着地型観光に特化した組織体制で誘致、ＰＲ、宿泊先案内などを行っています。今後、台湾を中心にインバウンド政策を推進していきので、その推進体制づくりは重要となります。笠間市単独では難しいのであれば、広域観光（水戸、笠間、大洗、ひたちなか）の協議会内でＤＭＯを組織化し、広域でのインバウンド政策を推進していくことを含め、検討してもらいたいと思います。**

# 2. 笠間の栗の生産・加工と流通

### 問　今後の生産見通し

**答　産業経済部長**　現在、収穫されている栗は約４５０トンで、平成２８年から取り組んでいる日本一の栗産地づくり推進の各種補助事業の結果、過去５年間で約２４ヘクタールの農地が拡大か改植による優良品種への転換がされた。４年後にはおよそ１３３トン増産される。

### 問　市内外の流通状況

**答　産業経済部長**　笠間の栗の需要が高まり、ＪＡ常陸には笠間の栗を市内にとどめるよう集荷体制の強化を依頼した。生産から加工・販売まで市内で一括して行うことで純笠間産の栗の商品を市内、全国へ届ける。

### 問　儲かる笠間の栗産地づくり協議会の役割

**答　産業経済部長**　ブランド化向上の推進体制を強化するため、生産者６団体、加工事業者２団体、菓子・飲食事業者４団体、茨城県を含めた関連団体１２団体の合計２４団体で、笠間の栗に関わるあらゆる分野の方々で構成した儲かる笠間の栗産地づくり協議会を８月２０日に設立した。栽培・剪定講習会の開催や先進地視察研修を行い、よりよい品質の原料を安定的に供給することで笠間の栗の高付加価値につなげ、笠間の栗のブランド化を図ることで、栗に関わる方々の所得向上を目指す。

「儲かる笠間の栗産地づくり協議会」設立総会

**問　協議会には、栗生産者は２社、また、栗生産から加工販売まで行う企業が２社しか入っていない。栗の生産農家や笠間の栗を扱っている加工や飲食店は、この協議会に加入できるのか。**

**答　産業経済部長**　協議会の加入は、笠間の栗に関わる方であって、笠間の栗のブランディングなどに協力いただけ、本協議会の理念に賛同していただければ可能。

### 問　新栗まつりの開催内容

**答　産業経済部長**　生栗、焼き栗、栗の和洋菓子の販売やゲームなど盛りだくさんな内容で子どもから大人まで楽しめる祭りとして開催した。早々に完売になった店舗等があったので、次年度開催時には対策を行う。

### 問　新栗まつりの今後について

**答　山口市長**

新栗まつりは進化させていくことが大切。そのために新しい企画を導入し今までにない、例えば栗の商品開発をして提供するとか、そこをしっかりと対応していくことが必要。さらにモンブランについてはモンブラン祭り（もんぶらり旅）をやっていて、市内各所で期間限定の店、通年通しての店もある。焼き栗については、現在、市の支援事業で焼き栗機械を導入した農家が、この１年で１０件程度あり、焼き栗を軒先販売している。モンブラン祭りと同様に、市内を焼き栗祭り的なイメージで捉えて販売することも、新栗まつりとは別に検討したい。

問題は、焼き栗の品質。良い焼き栗を提供しないと、今まで育ててきた笠間の栗ブランドイメージが崩れてしまう。そのため焼き栗機械を導入した農家に対して、焼き栗の勉強会などを行い、良い商品提供をしてもらい、笠間の焼き栗についても、新栗まつりと併せて栗のＰＲとして計画している。

**■新栗まつりは「笠間に栗」のＰＲ活動の一環として実施してきたが、その役割は十分に担ってきたと思う。今後は、笠間市内を「笠間の栗」商品を目的に回遊し、美味しい「笠間の栗」を堪能してもらうことを重点的に推進することが必要だと思います。**

# 3. 市内の学校間連携と市内高校と地域の連携

### 問　学校連携協議会の役割と機能

**答　教育長**　協議会は、校種間の特徴や課題を共有し、各校種の理解を深め、効果的な連携の在り方を協議し、円滑に創出した取組ができるよう、教育効果を高めることを目的に行っている。委員間で共有した情報を校長会等でも共有することによって、より円滑に連携事業が推進できる。

### 問　学校間連携の状況

**答　教育長**　中高連携として、日本ウェルネス高校の女子バレーボール部が中学校の女子バレー部と合同でバレーボール教室を開催したほか、同校と市内中学校の両吹奏楽部が定期演奏会に相互にゲスト出演するなど有意義な取組ができた。各学校の教職員の相互授業参観が円滑にできるよう学校公開日を共有し、相互授業参観を推奨することで教職員の資質・能力の向上を図っている。ＩＣＴ活用教育研究会、英語教育推進連絡協議会には、市内高校と特別支援学校の教職員も参加し、専門分野の資質・能力の向上を図るなど、今後も一層の連携を推進する。

### 問　高校と地域の連携や交流事業

**答　教育長**　日本ウェルネス高校は２講座を一般市民にも開放し実践している。笠間高や友部高は笠間ならではの地域産業や文化芸術資源を生かした体験や展示、研究を行っている。